

平成5年度 研究部活動報告

池田 正雄 西原 口伸一 林 正太
加藤 英明 平賀 伸夫

研究部

要 約

本年度の本校研究部の方針は、従来通り、研究面において竹早の良き推進力になるように努めることである。具体的には、(1)研究部としての日常的業務を行うこと、(2)平成6年度文部省「研究開発学校」の指定を受けるにあたって、その研究内容等の検討を行い、申請することであった。しかし、(2)については、年度途中から、大学附属学校部長から要請のあった「竹早地区の将来構想」の構築の仕事を優先することになり、平成6年度の研究開発学校の申請は断念せざるを得なかった。しかし、竹早地区の将来構想として、「竹早地区幼・小・中一貫教育カリキュラムの開発」という大きなテーマが設定され、一貫教育をめざすに当つての竹早地区11年間の教育の骨格が出来上がった。

キーワード 研究部 将来構想 幼・小・中一貫教育

I 本年度研究部内役割分担

- (1) 附属研究会・研究推進委員会関係 池田
・附属学校研究推進委員会への出席および報告
- (2) 研究紀要 加藤、西原口
・研究紀要原稿の募集、取りまとめ、編集、発注、発送等
- (3) 全国附属学校関係 平賀、林
・全国附属学校の研究会案内の受理および教官への案内
・全国附属学校の研究紀要等、研究物の受理および保管管理
・「日本教育新聞」の受理および管理保管
- (4) 校内研究推進 平賀、加藤
・校内研究授業の企画および運営
・校内研修会の企画および運営
- (5) 予算・記録 林
・予算の執行および部会等の記録、文書の保管整理
- (6) 竹早地区幼・小・中将来構想合同委員会関係 池田
・一貫教育カリキュラムの開発

II 本年度の主な活動内容

1 校内研究会

(1) 第1回 校内研究会<公開授業と研究協議会> 平成5年7月7日(水)実施

- テーマ「表現力を高める指導について」

- 公開授業・授業研究会

①授業者・提案者～阿部眞士教官(美術科)

授業内容「表現意欲を引き出す美術指導」

対象学年・組⇒3年B組

②授業者・提案者～植田伸二教官(英語科)

授業内容「表現力を育てる試み」

対象学年・組⇒1年C組

- 研究協議会

研究協議会テーマ「表現力を高める指導について」

提案者⇒西原口伸一教官

池田正雄教官

(2) 第1回 竹早地区幼・小・中合同研修会 平成6年1月12日(木)実施

第2回校内研究会を平成5年11月10日(水)に計画していたが、予定を変更し、竹早地区幼・小・中一貫教育の実現をめざすにあたり、幼・小・中合同で「竹早地区幼・小・中合同研修会」を開催する。

- テーマ「一貫教育をすることにより、何を求め、何をめざしたいか。また、それを実現するためにはどんなことを行ってみたいか。」

地区として一貫教育を進めていくには、一貫教育へ向けての基盤作りをすることが大切である。そこで、まず考えなくてはならないことは、幼・小・中の教官が自由に話し合いのできる場を多く設け、お互いが意見交換する中から共通理解を深め、一人ひとりが意欲をもってこの研究に取り組めるような土台を築くことが先決である。

そこで、本格的にこの研究に入る第1ステップとして合同研修会を開催し、まずは、「幼・小・中一貫教育をすることにより、何を求め、何をめざしていきたいか」、また「それを実現するためにどのようなことを行ってみたいか」を中心に一貫教育について意見交換を行うことを目的とする。

- 内容 (1) 全体会Ⅰ～・合同研修会設定の主旨説明

- ・この1年間の研究経過報告
- ・今後の見通し

(2) 分科会～6つのグループに分かれて、上記テーマについて協議

(3) 全体会Ⅱ～・分科会で話し合ったことの報告

- ・まとめ

(3) 第3回 校内研究会<講演会> 平成6年2月16日(木)実施

- テーマ「今、竹早地区幼・小・中一貫教育に求められているもの」

講師 東京学芸大学教授 児島邦宏先生(附属大泉小学校校長)

要旨：神戸大学発達科学部附属明石小・中学校で研究が進められている一貫教育を例にとり、一貫教育のあり方を説明。今後は学校5日制との対応を根底に据えて考えていくことがまず大切か。小学校低学年で実施されている生活科の高学年での実施(現在のところ構想なし)，ティーム・ティーチングの小・中乗り入れ，クラブ活動の小・中乗り入れ，選択学習の小学校実施，さらに，心の教育の充実等，一貫教育を進めるにあたり研究すべき課題について示唆される。

2 竹早地区幼・小・中将来構想合同委員会

本委員会は、4月当初は、昨年度からの継続で、文部省研究開発学校指定に向けての作業を主な業務としていたが、年度途中から、大学附属学校部長の要請である「竹早地区の将来構想」の構築についての研究を行うことが主たる業務となり現在に至っている。

(1) 研究テーマ「竹早地区幼・小・中一貫教育カリキュラムの開発」

竹早地区幼・小・中11年間が段差なく滑らかに接続し、より豊かな人間性を持った子どもを育成していくための一貫カリキュラムを開発する。

(2) 基本的な考え方と構想の条件

- 基本的な考え方

附属の存在理由を認めさせる確かな何かを打ち出す。

● 構想の条件

- ① 附属だからこそできるもの
- ② 中・長期的に継続研究実践できるもの
- ③ 特色が明確に出るもの
- ④ 幼・小・中連携して実践できるもの
- ⑤ 都会の中の学校(地域性)を生かすことができるもの

(3) 地区としての統一した教育理念・教育目標等の設定

幼・小・中一貫教育を進めていくには、竹早地区として各校(園)の教育精神・目標・指針等を十分踏まえた上で、何か統一した教育理念が必要になってくる。そこで、現行の各校(園)の教育精神・目標指針の上に、これらを総括するような「竹早地区教育理念・教育目標」を設定する。

合わせて、「幼・小・中一貫教育」を通して育てたい子ども像を明確にし、その実現に向けて、学習面(教科領域)と生活面(道徳、特活領域)の両面に渡る一貫カリキュラムを構築することが必要である。

竹早地区の教育（合同委員会案）

～幼・小・中一貫教育～

《竹早地区の教育目標》

心身の成長・発達に即した幼・小・中一貫の教育活動を展開し、心身ともに健全で、個性・創造性豊かな、主体的によりよい生き方を求め続けることのできる子どもを育成する。



《教育指針》



自己教育力の育成

- ・個性・創造性の重視
- ・主体性の育成
- ・自己表現力の育成
- ・自己を評価する態度・能力の育成



健康的な心身の育成

- ・豊かな人間関係づくり
- ・道徳教育の充実
- ・健康教育の充実
- ・環境教育の充実



幼稚園
教育精神・教育
目標・教育指針

小学校
教育精神・教育
目標・教育指針

中学校
教育精神・教育
目標・教育指針